

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100269		
法人名	(有)コンフォート		
事業所名	グループホーム なけ～ま原		
所在地	沖縄県那覇市仲井真238-3 1F		
自己評価作成日	平成22年8月18日	評価結果市町村受理日	平成23年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo.joho-okinawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4790100269&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205
訪問調査日	平成22年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

チームケアを強化しております。
 良いケアをする為に何が必要か、問題が起こるたびに多くの話し合いの場を持ってまいりました。
 その中で、導き出し実践している事が“声を掛け合う”などの職員間の徹底したコミュニケーション力です。これを強化してきたことにより、事故は勿論、ヒヤリ・ハットも劇的に減り、より良いサービスを提供する為、職員ひとり一人が考えて行動できるようになりました。どこかの事業所のマネをするのではなく、今のなけ～ま原はどうなのか？どうすべきかをスタッフ全体で話し合い確認し、実践しています。チームケアの大切さを理解し、実践している事業所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは閑静な住宅地の中にあり目の前に川が流れている。①開設以降毎日入浴を行っている。それにより夜間の安定した睡眠、感染症の予防、清潔な身なり及び化粧等、利用者の快適な暮らしが確保されている。②早期に近隣の小学校・保育園・児童館とのつながりを大切にして敬老会の協力が得られている。また将来設置が予定される公園の話し合いに参加して地域へ貢献していく姿勢が見られる。③常勤の看護師が配置されている。利用者の日常の健康管理だけでなく夜間や祝日の緊急対応及びかかりつけ医への緊急連絡等の仕組みが確実に取られている。利用者や家族の医療に対する安心を提供している。④三食ともホーム内で職員が調理を行っている。このことにより、利用者の好みに合った献立を提供する事が出来ている。上記の事業所のアピール内容にあるようなチームケアを大切にしたい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日：平成23年2月18日

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「支え合う快適な暮らし」を基本理念とし、利用者の快適な暮らしを支える為に、職員間も支え合っています。	現在の理念は法人全体の理念として掲げられている。所長は以前小規模多機能型居宅介護事業所に勤務した経験があり、その経験を踏まえて今後事業所独自の理念を職員とともに作成していく予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	5月に行われた「国場川こいのぼりまつり」などの地域行事への参加、仲井真小学校へのボランティア活動、周辺保育園との交流を盛んに行っております。	現在自治会へ加入について検討している。公園設置推進実行委員会へ参加し、事業所を将来地域の休憩場所として活用できるよう準備している。近隣の小学校・保育園・児童館とのつながりを大切にしているが、今回事業所の敬老会への協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	仲井真小学校教員へ「認知症サポーター養成講座」を行いました。今後、生徒や父母への講座などを行う予定です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在2回の会議を行いました。報告や話し合いは有意義に行えております。家族からの意見もサービス向上に繋げていきたいと考えております。	開設以来2回会議が開催されているが、定期的な開催に至っていない。会議においてホームの概要及び活動報告、その他家族や市役所担当課職員との情報交換が行われている。	指定基準上2か月に1回以上の開催となっているので、今後は定期的な会議の開催及び利用者・地域住民の参加も期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	那覇市役所チャージんじゅう課の職員から多くのアドバイスを頂いております。関係を築く為に、直接役所に足を運んだりする事もあります。	開設当初より市役所との連絡を密にとり、1か月に1回程度市役所担当課職員との顔合わせを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は勿論、身体拘束には最新の注意を払っております。しかし、正しい理解の為に、勉強会を行っていないのが現状です。今後、身体拘束についての理解を職員全体で高めていきたいと考えます。	日中の大半を1階で過ごすしているが、外に出ていく利用者も無く、昼間は玄関の鍵はかけていない。居室は2階となっているが、夜間の睡眠が確保され夜間歩き回る利用者は少ないが、転落防止のため階段入り口に柵が設置されている。	今後身体拘束を含めた認知症のケアに関するマニュアル作成及び研修の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴言暴力は勿論、話し方など不快に感じない為にどう対応すべきまで話し合い実践しております。しかし、勉強会を行っていないのが現状です。今後、虐待についての理解を職員全体で高めていきたいと考えます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだまだ勉強不足ところだと感じております。私は勿論、職員全体で学ぶ機会を設け、実践していきたいと考えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所後のトラブルを避けるため、契約時には十分過ぎるほどを心がけて説明しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族の訪問時は、必ず私と一対一で話せるような場を作っております。実際にあった内容で「職員への不満」を頂いた事があります。すぐに対応し、今では『いつもありがとうございます』と安心して帰られます。	家族の来訪時には管理者は話を聞くようにしている。現在は「意見箱」等の設置は無く、利用者や家族の意見を反映する仕組みもこれからである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場で行うことは、必ず職員と話し合い決定しております。サービスを行うのはあくまで現場の職員と考え、職員の意見や提案は勿論、要望も聞く為の場を多く持ちます。	月1回の全体ミーティングにおいて所長と職員間で業務に関する意見を交換している。これまでに倉庫だった場所が職員の休憩室へと改善された。開設当初は職員と個別面談を行い一人ひとりの職員のメンタルな悩みを聞きとる機会があったが、現在は細かい面談まで行うことが難しい状況にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	すべてに対応していると考えます。職場環境はどんどん改善されております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加など、積極的に行動させてくれております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	那覇市役所ちやーがんじゅう課との交流の場など、積極的に参加させてくれております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	私とケアマネージャーで行う実態調査だけで入居を判断をしておらず、その後職員全体でサービスを行えるかを話し合っています。結果、それが本人の安心なサービスを提供できるスタートと考えております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	私とケアマネージャーで行う実態調査だけで入居を判断をしておらず、その後職員全体でサービスを行えるかを話し合っています。結果、それが本人の安心なサービスを提供できるスタートと考えております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	全部を見極めているとは言えませんが、本人と家族が必要としている支援を話せるような姿勢を心がけております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除は勿論、職員と本人が助け合う場面は多くあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支えるのは家族の協力もとても大切との考えを、常に家族側にもお話ししております。病院受診などの急な対応は、家族と話し合い、当日なけ～ま原で対応したりと助け合っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所へ訪問していただける方以外には、馴染みの場所への訪問等は家族対応をお願いしているのが現状です。家族が対応できない方は、馴染みに人や場所との関係が薄れてきていると感じております。	2名の方が在宅から、7名の方が施設等から当ホームに入居している。在宅からの利用者が少なく、入居時にはすでに以前住んでいた地域との馴染みの関係が薄くなっている。定期的に馴染みの場所を訪ねることが難しい状況にある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	現状、相性の問題上、支え合う関係を作り上げられない利用者はいます。しかし、ひとり一人の孤立などではなく、穏やかに過ごせる環境を作り上げる事で、利用者同士のより良い関係を作り上げていています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)の修了が、開所してまだ一例もありません。サービス利用(契約)の修了すれば、次の安心の場を見つけるために、多くの支援をしていく考えです。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の最近の状況から異変を感じたら職員全体で話し合う場を設けております。その中で本人から得た情報を話しに挙げ、本人の意向を尊重した対応を心がけております。	お世話になっている事を苦にしている利用者に対して、気兼ねなく利用してもらうため、掃除のモップかけや食事の配膳を手伝ってもらうことで、職員とのアイコンタクトによるコミュニケーションが図られるようになった。意向の把握が難しい利用者に対しては、家族から利用者の生活歴を聴き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	定期定期に行うケアプランチーム評価により何度も確認しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期定期に行うケアプランチーム評価により何度も確認しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期定期に行うケアプランチーム評価により、本人・家族・必要な関係者から得た情報を話しに挙げ、現状に即した介護計画を実践しております。	利用者と家族のサービス担当者会議への参加はみられず、現在ケアマネが中心となり所長・看護師・介護主任等が会議に参加している。利用者一人ひとりの生活課題が具体的に示されており、職員が一つ一つの目標を実施している。その後の達成状況及びそれに対する所見を踏まえたうえで目標の修正・変更が行われている。	サービス担当者会議において、利用者と家族の参加を促していくような取り組みを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	十分に活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	なけ～ま原は「今を大切に」を考えておりますので、既存のサービスに捉われない柔軟な対応を心がけております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が望む暮らしを支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院との医師と看護師を中心にしっかりと連携がとれています。本人も家族にも、安心した受診支援ができていると考えております。	月に1回協力医療機関の医師による往診が行われている（現在利用者全員のかかりつけ医となっている）。緊急時にはホーム看護師から医師へ利用者の状況を迅速に連絡できる仕組みがあり、利用者や家族の医療に対する安心が得られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護師の確かな連携により、個別の適切な受診はもちろん、安心な毎日を過ごせております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師とケアマネージャーを中心に、入院前から病院との情報交換や相談は積極的に行っております。時には、病院に足を運び情報交換や相談、利用者の様子を確認しにまいります。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ例はありません。できる限りの支援は積極的に行っていきます。	法人代表者は終末期に向けた理念を持っているが、ホーム全体でそのことを検討されていない。契約時において、車いすレベルになった時にはホームでの生活が難しいことを家族へ伝えている。その際は次の生活へ向けた住み替えへの支援を行っていく姿勢は示している。（特別養護老人ホームへの入所等）。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の指導の下、基本的対応の訓練は指導できる環境にあります。しかしながら、定期的には行えてないと感じております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	まだ不十分な項目です。 今後、消防訓練は勿論の事、さまざまな災害を予測した対応を確認し訓練します。そして、大家さんを含め近隣住民への理解と協力を求めています。	ホーム内には消防署への火災通報設備（直通電話）が設置されているが、開設以来避難訓練が一度も実施されていない。1階は2か所避難経路が確保できているが、2階は1か所である。	今後は消防署の協力を得て直通電話の使用方法を職員間で確実に共有できるよう実施してほしい。また避難訓練に備えて、利用者が日常的に玄関から外へ出られるような習慣を普段の生活から取り組まれるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の生活歴など、細心の注意を払った言葉かけや内容に気をつけ対応しております。	ぞんざいな言葉使いがみられたときには所長が職員に対してその場で指導している。また排泄に失敗したときには、「利用者の責任でなく、失敗させてしまった職員が反省しなければならない。」と所長自身が職員へ利用者へのプライバシーに対する姿勢を示している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	抑制せず、何がしたいのかを聞いて寄り添う事を心がけております。時には、何も声をかけず、そっと寄り添うだけの対応も行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本、一人ひとりの意志を尊重した対応を行っております。トイレ・入浴拒否などは、職員のコミュニケーションにより気持ちを向かせるよう対応しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なけ～ま原のご利用者は外出時には、職員のお手伝いのもとお化粧をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事支援は意識的に行っています。	食事は3食とも職員が食材の買い出しと調理を行っており、利用者の好みに合った献立を随時提供している。利用者には下処理（もやしのひげとりやじゃがいもの皮むき）を職員と一緒にやっている。職員の食事は準備されていない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事摂取量を管理する事により、自ら摂取している環境を整えております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員行っています。拒否のある方は、時間をずらしたり工夫をして必ず行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつやパッドに頼らず、一人ひとりの力を活かせるよう支援しております。	入居後に生活になじんでくることで、利用者の排泄パターンを把握し、排泄の失敗が少なくなりおむつやパットに頼らない、排泄の自立支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	協力病院(川平病院)との連携により、看護師を中心として個々に応じた予防に取り組んでおります。変化があればすぐに対応できる環境です。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、全員毎日施行しております。拒否があれば時間をずらしたり工夫をして対応しております。	毎日入浴を行っている(午前6名午後3名)。浴室はスペースの関係上個浴である。毎日の入浴により、夜間の安定した睡眠、感染症の予防、清潔な身なり及び化粧等、利用者の快適な暮らしが確保されている。入浴を拒否する利用者には、職員を交替する等工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ1Fで過ごして頂く事がおいですが、本人の気分でお部屋で休んでもらうなど、自由に行動していただく支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力病院(川平病院)との連携により、看護師を中心として服薬管理を徹底しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族からの情報から本人の楽しみごとを見つけ、個々で楽しんだり、全体で楽しんでもいただけるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週に1回行う全体ドライブで様々な場所へ出かけます。家族や地域の人々と協力しながらの外出はまだ行っていません。	ホーム周辺は細い道路が多くあり、休憩する場所がなく利用者が散歩することが難しい環境にあり、個別の外出支援はされていない。が週に1回はドライブに出かけるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持を希望する方がまだいない為、家族へ協力を依頼したことはありません。今後、検討していきたいと考えます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙とは勿論、直接の電話も本人に繋いでおります。本人から希望があれば時間帯によりご家族へご連絡もしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾りつけ等で共用空間を彩り、心地よく過ごせる環境づくりをしています。	1階はワンフロアでバリアフリー構造となっている。ホーム内の床はフローリングで統一されており、清潔感が感じられる。トイレ内のスペースが広く確保されており、利用者がスムーズにトイレまで移動できるような構造となっている。テレビの音量を一定以上に上げないように注意書きがみられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いの場所で過ごしていただいております		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇等、本人の大切なものを居室で使っていただいております。	壁にアイドル歌手の写真が貼られたり、自宅から仏壇が持ち込まれている部屋もあれば、布団のみの質素な部屋もみられる。	